

7月6日定例記者会見の概要

1 日 時 令和2年7月6日(月) 10時00分～10時45分

2 場 所 本庁舎4階 議場

3 出席者 <報道機関>

朝日新聞社 南相馬支局(南相馬記者クラブ加盟社)

NHK 南相馬報道室(南相馬記者クラブ加盟社)

毎日新聞社 南相馬通信部(南相馬記者クラブ加盟社)

河北新報社 南相馬支局(南相馬記者クラブ加盟社)

読売新聞社 南相馬通信部(南相馬記者クラブ加盟社)

福島民報社 南相馬支社(南相馬記者クラブ加盟社)

福島民友新聞社 相双支社(南相馬記者クラブ加盟社)

時事通信社 福島支局

みなみそうまチャンネル

計 9 社

< 市側 >

市長 林副市長 総務部長 復興企画部理事 市民生活部長

健康福祉部長 経済部長 経済部笹野理事 経済部中目理事 建設部長

(テレビ会議) 常木副市長 教育長

計 12 人

(司会進行) 秘書課長

(会議記録) 秘書課広報広聴係

【市政報告】

初めに、新型コロナウイルス感染症に関してです。

本市で最後に感染者が確認された4月26日から昨日までの71日間、新たな感染症患者は出ていません。これも、市民の皆様のご理解・ご協力の賜物であり、改めて市民の皆様に御礼申し上げたいと思います。

国は、6月19日に社会経済活動のレベルを一段階引き上げ、都道府県をまたぐ移動の制限などを解除しました。

市内における社会経済活動も少しずつではありますが、元に戻りつつあります。こうした流れを止めないために、市民の皆様とともに、引き続き、「新しい生活様式」の定着に努めていきたいと考えております。

一方で、間もなく本格的な夏を迎えます。「新しい生活様式」の基本的な感染対策であるマスクの着用により、熱中症にかかるリスクが高まる恐れがあります。

熱中症の予防には、のどが渇く前の水分補給や塩分摂取のほか、こまめな換気を行った上でのエアコン利用が有効です。また、屋外で周囲の人と概ね2m以上離れ

ている時は、マスクを外しても問題ないと言われていています。特に高齢者、子ども、障がい者の方々は、熱中症にかかりやすいので十分に注意していただき、周囲に具合が悪そうな方がいたら、積極的に声かけをしていただくようお願いいたします。

それでは、前回の記者会見から最近までの出来事についてご報告いたします。

まず、市議会定例会についてです。

6月10日に開会した第5回南相馬市議会定例会は、6月25日に閉会しました。この議会では、「南相馬市市民一体化復興促進基金条例の一部を改正する条例制定について」をはじめ、追加提案を含む議案15件について議決を賜りました。

次に、ふるさと学生応援制度についてです。

市では、7月1日から、新型コロナウイルス感染症の影響により、不安を抱えている本市ゆかりの学生に対し、ふるさとの支援品を送る、ふるさと学生応援制度を開始しております。

対象は、保護者が南相馬市民である学生か、市内の職業能力開発校や看護学校に通学している学生となります。支援品はこちらに準備した4種類から選択してもらうこととしております。また、秋には、市外で生活する学生に対し、南相馬市産の新米を送る予定としています。

地元の農作物や加工食品などの支援品を食べて、元気を取り戻していただきたいと考えています。

なお、7月5日時点での申し込み件数は130件となっています。最大で900名程度からの申し込みを予定していますので、より多くの学生に声が届くように、報道機関の皆様にもPRにご理解、ご協力をいただきたいと思います。

続いて今後の主な話題について触れたいと思います。

はじめに、南相馬市民を対象としたロボテス見学会2020についてです。

8月22日に、福島イノベーション・コースト構想推進機構や浪江町と連携し、福島ロボットテストフィールドの見学会を開催します。

これは市民を対象として特別に開催するもので、市民の方はどなたでもお申し込みいただけます。当日は、開発中のロボットや実際にロボットが動く様子などが見学できます。詳細は現在調整中ですので、別途、プレスリリースなどで、情報提供させていただきます。

ぜひこの機会に見学いただき、市内にこのような施設があることを実感していただき、誇りを感じていただきたいと思います。

次に、北泉海水浴場についてです。

市では、北泉海水浴場を、市民の皆様が利用できるようにいたします。

利用期間は7月23日から8月23日の1か月間で、利用時間は9時から16時となります。市民の皆様におかれましては、外出自粛や各種活動の制限など、日常

生活に対する様々なストレスを抱えていることと思います。地元の海で海水浴など、余暇を楽しんでいただきたいと思います。

次に令和2年度の相馬野馬追についてです。

既に発表しておりますが、地域の平和と安寧を願うという本来の趣旨に則り、今年度の相馬野馬追は、規模縮小の上で神社内での祭礼のみの実施といたします。無観客での開催が決定しているところです。

総大将は昨年に引き続き、相馬家第33代当主 相馬和胤公の御嫡男相馬行胤様、副大将 海老原永明様がご出陣される予定です。

本市では、7月26日に相馬太田神社で例大祭、27日には相馬小高神社で例大祭及び上げ野馬の神事が行われる予定です。なお、大変申し訳ありませんが、市民の皆様の境内への入場についてはご遠慮いただきたいと思います。

報道機関の皆様の取材や撮影方法については、人数制限などを設ける予定ですが、皆様からのご意見なども踏まえ、調整してまいります。こうしたコロナ禍における相馬野馬追の執行について、市内外への周知にご協力をお願いしたいと思います。

また、市としても記録を残すため、市独自の記録映像の撮影や南相馬チャンネルによる撮影も予定しています。併せて、執行委員会では、馬主支援を目的としたクラウドファンディングを計画していますので、市としても、協力してまいりたいと考えております。

次に、企業誘致に向けた取り組みについてです。

市では、新たに都内の一般財団法人日本立地センター内に南相馬市東京支所を設置することとし、7月8日に開所式を行います。

東京支所を設置し、職員を配置することによって、より迅速かつ円滑な情報提供や、企業訪問などが可能となります。

福島ロボットテストフィールドをはじめとする本市の優位性をPRすると共に、東京支所を拠点とした新たなビジネス創出に寄与することで、本市の企業誘致に繋げていけるように取り組んでまいります。

なお、先ほどの新型コロナウイルス感染症対策本部会議で定めました内容等を踏まえまして今のところ、私も出張する予定としています。

次に、野馬追の里健康マラソン大会についてです。

毎年12月に実行委員会主催で開催されている野馬追の里健康マラソン大会・ウォーキング大会ですが、検討を重ねた結果、今年度は開催を中止することになりました。

このことを受けまして、市では、市民の健康づくりや、大会を次年度に繋ぐため、代替りとなるイベントとして、市民を対象としたウォーキングやweb上での大会開催などの検討を進めています。本来の目的である健康マラソン大会ということで、健康づくりに向けて必要な対応を順次計画しておりますので、詳細が決まり次第、改めて情報提供させていただきます。

次に、大規模乾燥調製貯蔵施設である小高カントリーエレベーターについてです。

市では、今年度、小高区内の水田農業再生に向けて、小高カントリーエレベーターの建設工事を実施いたします。

7月より工事を開始しますが、先立ちまして、7月17日に施工業者主催による建設工事安全祈願祭も行われる予定です。

【各部からの報告】

特になし

【各部からの資料提供】

総務部

- ・南相馬市ふるさと学生応援制度

市民生活部

- ・第33回野馬追の里健康マラソン大会・第15回ウォーキング大会の中止について

経済部

- ・小高カントリーエレベーター安全祈願祭の開催について

【質疑応答】

質問1：

北泉の海開きについてです。新型コロナウイルス感染症の感染拡大の兆候があれば海水浴場を閉鎖するというのですが、判断基準の内容と示される時期を教えてください。

回答1：市長

現時点で、明確な基準は定めていません。県の対策本部において感染拡大地域と認定されるかどうかを考えています。既に基準が定められている学校などの開校基準などを参考に、市内の感染症患者の発生状況などを踏まえ、判断してまいります。判断基準を示す時期については検討させていただきます。

質問2：

先月中旬に市営団地に不法侵入していた20代の男性が逮捕された件について、原因と再発防止策についてお考えを教えてください。

回答2：市長

本件については、事前に市で侵入している痕跡を見つけ、警察と連携した結果、逮捕に至ったものとの認識です。今後は、定期的な見回りが必要と考えています。

回答2：建設部長

再発防止策については、職員や市営団地の管理人が定期的な見回りを開始しております。ただ、空室も相当数あることから、基本的には月1回を目指して、スケジュールを組んでいるところです。

質問3：

南相馬市東京支所の場所や体制などの情報と具体的な活動内容を教えてください

い。

回答3：経済部長

設置場所は、東京都千代田区神田駿河台にある一般財団法人日本立地センター内となります。体制については、商工労政課の係長職1名、係員級1名の計2名が、月の半分程度、駐在する形で考えています。

具体的な活動内容は、企業立地に向けた支援として優遇措置の紹介や、立地先を探している企業の情報収集や、中央官庁や学術機関、主要研究機関等への支援策の提案等を通じた連携を図ってまいりたいと考えております。

回答3：市長

市の方針として、企業誘致と並行して、人材誘導、人材誘致を進めたいという考えがあります。南相馬市には、福島ロボットテストフィールドという核があり、加えて、賃貸事務所も設けました。

こうした活動が、最終的に企業の誘致などに繋がれば喜ばしいことですが、その前段として、福島ロボットテストフィールドの全面開所を機に、南相馬市、あるいは相馬地方や浜通り地方が、研究がしやすい場所であるということ、一人でも多くの人に届け、選んでいただくために、今般、拠点設けるものとなります。

質問4：

福島第一原子力発電所の汚染水の問題についてです。

海洋放出について、各市町村議会が反対の意見書を採択していますが、市長としてはどのようにお考えでしょうか。

回答4：市長

議会での一般質問などでもありましたが、基本的な考え方としては、国が方針を示す必要があると考えています。万が一の場合や風評被害などを懸念する声もありますので、国は、こうしたことが発生した場合の対応策など、具体的な内容を示す必要があると考えています。

加えて、こうした懸念の声があることを踏まえ、放流ありきの拙速な決定は避け、長期保管なども含めた検討などの対応を取っていただきたいと考えています。

質問5：

長期保管も視野にとのお話ですが、海洋放出については、今のところ、反対という立場を取られているわけではないということでしょうか。

回答5：市長

国には、市民に向けても私もそうですが、しっかり説明していただいた上で、状況を確認したいと考えております。

原子力発電所を運営しているわけですから、最終的に汚染水の処分も含めてセットの話だと考えています。

海洋放出については、心情としては反対です。市民の声も本音としては、「放出して欲しくない」というものだと思いますし、私もその思っています。ただ、対応や対策は必要ですので、国が責任のある対応を取るべきだと考えています。

質問 6 :

小高区の避難指示解除から間もなく 4 年が経過します。最近の人口の増加率をみると横ばいに見え、これ以上の増加は難しいという印象を持っています。

震災後 10 年ということも含めて、今の小高区の現状をどのようにみられているのか、課題を含めて政策や取り組みについてお考えを教えてください。

回答 6 : 市長

小高区の状況ですが、市民生活の不安を解消するため、診療所や薬局、小高ストア、復興拠点などの施設整備等を積極的に行い、計画していた施設は概ね整備されてきていると理解しています。今後は、これらの施設を十分に活用するための体制作りに向けて、ソフト面の対応が大切であると考えています。

人口は横ばいと言われましたが、今年の 3 月から 4 月にかけて 70 名程度帰ってきており、悪い状況では無いと思っています。

今後に向けては、まだ戻って来られない、あるいは帰還を決めかねている方達の帰還促進を図ることと、これまで小高に住んでいなかった新しい住民を呼び込むことの二つが大切だと思っています。現在の小高区の住民のうち、1 割強が新しい住民です。また、避難指示解除後には 100 名近いお子さんが生まれています。

帰還促進も当然重要ですが、新しい若い人たちに小高区を選んでいただけるように魅力のある場所作りに取り組んでまいります。

一つ付け加えるとすれば、小高区では高齢化率が高くなっています。住んでいる人たちが寄り添って、生活していくため、地域コミュニティや行政区の再編なども必要です。こうした住民の方達が寄り添って地域課題を解決していく姿にも期待しており、今後、一気に人口減少した地域の環境保全をどのように行っていくかということも、市と行政区の皆さんと順次、話をしていきたいと思っています。

質問 7 :

新しい人を小高区に招きたいとのことですが、イメージをお聞かせください。

回答 7 : 市長

企業や人材を誘致する場合、南相馬市の魅力としては、自然が豊かでおいしい食べ物があることや、海水浴やサーフィンが出来るなど自然と親しむ機会が多いこと、更には、原町区には一定の都市機能があり、雪はあまり降らず、夏は涼しいという気候などもあると考えています。こうした魅力を、機会を捉えて、皆様にお知らせしていくというのが大きな方針だと思います。

小高区については、市街地に空き地、空き家が多くなっていますが、逆に、状況が整えば、住む場所や事務所が比較的多くあるということになります。近くには福島ロボットテストフィールドがあって、拠点となる研究の場所もありますので、ピンチを逆に捉え、こうしたことを訴えていきたいと思っています。

質問 8 :

国際教育研究拠点について伺います。市長が以前、相馬地方への誘致を表明されたと思いますが、具体的に現時点でどの地域が設置にふさわしいとお考えかお聞かせいただきたいのと、相馬地方の強みについてお聞かせください。

回答 8 : 市長

国際教育研究拠点は浜通り全体の復興のためという目的がありますので、その効果が相馬地方にも及ぶようにということで、過日、相馬地方で協議を行い、その中で、相馬地方としても誘致をしたいという決議を行ったところでもあります。

今回の施設は、人材誘致・誘導のためにこれまで整備してきた施設の取りまとめの施設と理解しています。

浜通り全体の発展になるためということですが、浜通り北部の放射能被害については、まだ帰還困難区域が残り、避難指示区域も北西に伸びているなど、大きな被害を受けております。こうしたことから、ぜひ浜通りの北部の方に拠点を設けていただければ、北部の開発に一定の弾みになるということをお願いしたものです。

相馬地方の利点としては、原町や相馬市に一定の生活・都市基盤が揃っていることが挙げられますので、研究者が住みやすい基盤があると理解しています。

こうした北部の現状や放射能被害の状況、人口回復が困難な状況などを踏まえて、今回相馬地方をお願いしたところでもあります。

質問 9 :

熊本の豪雨についてですが、復興支援などで関係あると思いますが、具体的に今後、人的・物的支援を考えている、もしくは要請していくおつもりがあるか教えてください。

回答 9 : 市長

例えば、今回被害の多かった人吉市からは、震災直後、多くの支援を受けております。鹿島区の仮設住宅で生活支援をしていただき、相馬野馬追の甲冑の制作、修繕への支援などもいただいたと聞いています。

今連絡を取り合っているところで、毛布とかタオルとか生活用品が不足しているという話をいただきました。幸い、水等については自衛隊が入っているので間に合っているということです。私どもから物を送るというのは時間的に難しいので、九州にあるイオンの店舗から、配送できないか打診しているところです。加えて、市民への義援金募集について早速手続きに入りたいと思います。

質問 10 :

新型コロナウイルス感染症の影響で、米の在庫が増えていると聞いています。市内の米農家のおかれた現状についてのご認識と今後の対応等あれば教えてください。

回答 10 : 市長

給食の中断や外食が減少したことで、野菜農家が困っていると受け止めております。米農家については、外出自粛の関係で、自宅で消費する機会が増え、4月頃は一時店舗から無くなったと聞いております。また、市内において、牛乳の消費が落ち込み、チーズや加工品に回すことで対応したと聞いていますが、長期的になると厳しいという認識です。そのため、農作物全般における消費拡大ということで、市としても新たな販路確保などについて協力してまいりたいと思っています。

また、ふるさと納税などで、定期的に農作物を宅急便で送るような返礼品の開発等を行って参りたいと思います。

質問 11 :

帰還困難区域については、各自治体の立場で検討され、国の出方もそれぞれ個別の対応となっているようです。南相馬市の帰還困難区域は、1世帯二人いらっしゃるようですが、市長として帰還困難区域の設定について、国に改善などを働きかけるお考えがあるか教えてください。

回答 11 : 市長

帰還困難区域に関する市の状況ではありますが、今、私が聞き及んでいる限り、お二人は戻る意思は無いとのこと。しかし、長期的な面や財産の面でも今後問題が出てくる可能性があります。お二人のご意向もありますが、現実的に帰還困難区域の線量が重要になってくると思います。残念ながら今のところ、基準となる年間50 mSV以上の状況が続いていると認識しているところであります。

市としても、一日も早く、帰還困難区域が無くなるのが重要な案件と考えており、その方向で取り組みたいと考えていますが、一方で、現在、人が住んでいない区域となっています。双葉地方の各団体の方など、現実的に人が住んでいる、あるいは住みたいという区域が優先という思いもあり、複雑な思いです。

以上